

# 北米出張を終えて

矢島 勉

一般社団法人日本貿易会 常任理事  
JFE 商事株式会社 代表取締役社長



日本のGW期間中に、米国の西海岸およびヒューストン、そしてメキシコのティファナ、モンテレイへ出張してきました。主な目的は、北米内の当社グループ各社への訪問、共に合弁会社を設立することを決定したパートナー企業の生産ライン視察、そしてこの時期にヒューストンにおいて毎年実施される海洋技術国際会議に合わせ、同会議に関連するお客さまをご招待して、JFEスチールが開催するパーティーへの出席でした。

私自身、ヒューストンに駐在し北米の文化や人となりとに直接触れてきた経験がありますが、今回の出張を通じあらためて感じた二つのことを述べたいと思います。

まず一つ目は、北米の人々から自然とあふれ出る常に陽気な雰囲気をもたらすパワーを再確認したことです。今回訪問した当社のグループ会社やパートナーの企業では、事業の一環として原油・天然ガス掘削用の油井管の生産・在庫・販売も行っています。また、ヒューストンは言わずと知れた米国のオイル業界の中心地です。2014年度上半期までは、原油価格が100ドル／バレルを超える水準で推移し、当社グループ会社・パートナー企業の油井管部門も好調に推移、ヒューストンは街そのものが活況に満ちていました。しかし、年度後半からは状況が一変。一時は原油価格が50ドル／バレルを切るまでに下落し、その動きに追従して油井管をはじめエネルギー関連の鋼材の荷動きは停滞してしまいました。ヒューストン各地で進んでいた建築関連のプロジェクトでも延期となった計画があるようです。

このような状況下、米国のグループ会社やメキシコのパートナー企業の皆さん、そしてJFEスチールのパーティーにお越しいただいたお客さま各位とお会いしましたが、厳しい環境にもかかわらず、とにかく皆さん明るく陽気で非常に前向き。各社個別の事情として油井管やエネルギー関連製品の取り扱いが事業の一環でしかないのかもしれませんが、厳しい外部環境であることを十分に認識しつつも、その環境に対して下を向くような雰囲気はほとんど感じられませんでした。

メキシコのパートナー企業の経営陣の皆さまには、生産ライン視察後にご自宅におけるバーベキューパーティーにまでご招待いただきプライベート面ばかりでなくビジネス面における今後の見通しや期待についての話題でも盛り上がりました。この場でも「悲観的」と感じる言動はほとんどなく、明るくPositiveなマインドで事に対する姿勢に触れることができました。

国民性や各国で根付いた文化もありますので、全てが正とはいえませんが、また北米でも全

く違う考え方を持つ人々も存在することは理解しています。けれど、「明るく陽気に、厳しい環境にもうつむくことなく前向きに事に臨む」ということを、自然に身に付け実行でき、そのような心持ちを常に保持する経営者でありたい。また当社グループの社員にもそうであってほしいとあらためて強く感じる機会となりました。「必勝」を導くためには組織全体が常に心に余裕を持って「必笑」の精神状態でいられること、そのために個人ができることをこれまで以上に意識してもらいたいと考えさせられる機会となりました。

二つ目は、ミッションを完遂するために営業の最前線で尽力することがいかに大切かということです。他社に比較すれば、遅れた感は否めませんが、2014年1月に、当社もメキシコシティ支店を開設しました。同支店の駐在員のミッションはメキシコ市場における鋼材・原料の情報を徹底的に収集すること。そして当社が標榜する地産地消のビジネス形態を、メキシコ市場でも発展させるためにパートナーとなり得る地元有力企業を発掘し関係強化を図ることの2点です。この2点を単騎一人でメキシコに乗り込んだ当社の駐在員が、自らのミッションを机上の言葉だけで終わらせることなく、今確実に進めています。本社はじめ関係者の後押し・尽力もあったとはいえ、パートナーとなり得る企業の懐に飛び込んで合弁会社を共に立ち上げるまでに関係を強化している姿を目の当たりにし、あらためて感銘しました。

また、ヒューストン訪問時、着任したばかりの若手駐在員が各地へ同行してくれました。ヒューストンの地理や食事を含めた文化にもまだまだ不慣れですが、どんなに小さなミッションにも常に全力、その姿勢が同地駐在時の若き日の自分と重なり懐かしく、共感を覚えました。つい自身の駐在時の経験から、「お客さまや訪問者をお連れするならこのお店、もてなす際はこの料理」と矢継ぎ早にアドバイスをしてしまいましたが、米国、特にヒューストンの駐在員として成長するためには、最低でも1ポンド(450g)のステーキを食べきらなくてはなりません。その後、トリプルのバニラアイスにキャラメルソースとピーカンナッツをかけたものをデザートとして平らげます。この食生活を週に2-3回しても、さらにまだ食べたいと思えるようなストロングスタックを持つことが駐在のための必須条件です。私自身、今回の出張で訪問した全ての都市(サンディエゴ、ロス、ヒューストン、モントレイ)で1ポンド以上のステーキとボリュームあるデザートを平らげました。日本人にとっては少し厳しいこの条件は冗談としても、私のちょっとしたお節的なアドバイスも、彼らであれば今後の武器として十分に応用を加えて使いこなしてくれることを期待します。

あらゆる場面で「グローバル化」という言葉が聞かれる中、各国の最前線で戦う駐在員が当社でも100人程度おります。今回訪問したメキシコシティ支店のよう一人きりで頑張る駐在員以外にも、本日この時点で、初の地域に駐在したばかりの日本のビジネスパーソンが世界各地にいるのではないのでしょうか。日本国内で働くビジネスパーソンは無論のこと、各地の駐在員の皆さんにも、前向きな「必笑」の精神と日本人固有の勤勉さを持って夢中に各自のミッションに当たってほしいと強く願います。そうすれば日本のビジネスパーソンがグローバルな時代の中でオリジナリティーある認められた存在となり、日本が果たすべき「グローバル化」とは何かクリアとなるのではないのでしょうか。そんなことを考えさせられる、今回の北米出張でした。